

電Fで三浦に通うキャスター 坂井浩流 夏の大ギス

とじ叩かせて
いただきます！



三浦半島・観音崎堤防ほか



POINT



①京急バス「観音崎行き」の終点。白い建物は「観音崎インフォメーションセンター」で、軽食やお土産などが購入できる。坂井さん曰く、「この軒先がもしものときの雨宿り場所です」 ②トイレは駐車場(平日は無料。7～8月の休日は860円。それ以外640円。午後5時閉鎖)奥 ③観音崎海水浴場。早くも水遊びを楽しむ人の姿も ④ゆるやかに傾斜しながら延びる観音崎堤防



左奥に見えるのが目的の観音崎堤防。「堤防の左側はカジメ、右側はアマモが広がっていて、V字に砂地が広がっているんですよ」



電F派の坂井浩さんとともに電車&バスを乗り継いで釣り場へ。途中、京急大津駅で下車し、『ポイント横須賀大津店』でエサを購入



堤防足下付近の水温を測ってみると20.5℃。「少し前までは20℃なかったので、期待できそうですね」



堤防先端に釣り座を構え、まずは一本竿で様子を見る



一投目から20cmクラスの本命登場。でっぴりとした良型に思わずニシヤリ



堤防右側の海水浴場はアマモ帯が広がる。このアマモが魚の隠れ家になっており、尺近い実績もあるとか

「まさにタマヅメの一端ですね。今日は曇りだったから多少時間が早かったのかもしれませんが」と狙いどおりの大ギスに大満足。かと思いきや、これからこの上を釣りませないと、気分が上った真鍮

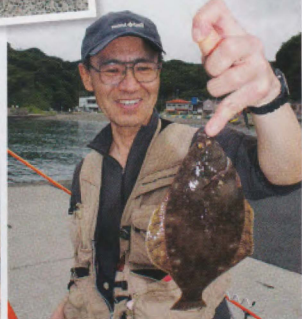
いいサイズいましたね!

27.5cm



左)上の20cmクラスと比べるとこの迫力。卵を持っているのか腹もパンパン

5時を過ぎると手のひらサイズのCALEYが連続ヒット。「実は今年初のCALEYなんです、リリースしましょう。釣り場が込んできたので京急ホテル下の磯へ



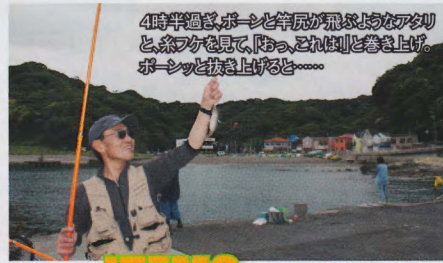
- ① 竿は取り回しのよい「サーフランダー365EX」
- ② テンピンはL型遊動。約30cmのスズリを介して仕掛けを繋ぐ
- ③ ④ 基本は2本バリ。1mのモスの先端にサルカンを結び、その上20cmの所にチチワでエダスを出す。バリは釣り場にに合わせて種類、サイズを選んで結ぶ
- ⑤ よく使うバリは「ケン付流線」「湘南キス」「喰わせふぐ」の3種類。「喰わせふぐ」は湘南キスに似た形で軸が太く刺さりもよい
- ⑥ エサのイワシメは硬い頭を刺し3〜4cmでカット



午後4時過ぎ、沖にメバル狙いの刺し網(パイ)が入る。地元師によると、この時期は毎日のように網が入るとか

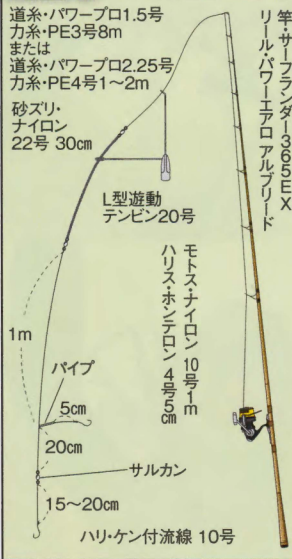


タマヅメに備えて尻手ロープを付け、置き竿の2本体制に入る。じっくりポイントを探りつつ、大ギスのアタリを待つ



4時半過ぎ、ボートと竿尻が飛び交うアタリと、糸フケを見て、「おお、これは!!」と巻き上げ。ボートと巻き上げると……

ITEMS



楽しい釣りなのである。シーズンを通して同じ場所に通い続け、1尾出れば御の字という厳しい世界だが、その1尾に出会うためのプロセスもまた

楽しい釣りなのである。シーズンを通して同じ場所に通い続け、1尾出れば御の字という厳しい世界だが、その1尾に出会うためのプロセスもまた

投げ釣りをしているシロギスを釣ったことがない、という人はまずいないが、尺ギスに関しては「見たこともない!」という人がほとんどではないだろうか。そんな幻の魚を求めて三浦半島に足繁く通っているのが、坂井浩さん。「24cmくらいだとゴゴゴッソと引く張る感じで、26cmを超えると竿がまっすぐ吹っ飛んでいくようなアタリが出ますよ。本当に同じ魚が掛かったとは思えない!」と、大ギス釣りの醍醐味を語る。